

Title	学会報告
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 1964, 3, p. 78-99
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52457
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

■ 第 5 回 大 会

昭和39年11月15日、16日の両日、京都大学楽友会館に各地、各分野より会員多数参加し、より充実した大会をもち得たことを会員諸氏と共によろこびたい。分野の多様性とそれぞれの分野相互の関連性、さらには、デザイン以外の分野との重なりあいの問題など、教えられた点、非常に有益ではあったが、それだけにまた、われわれの直面しているデザインの諸問題を解決することの難解さを改ためて痛感したのである。

総会ではとくに学界としての今後の運営の基礎である財政の問題がとりあげられ、その面からの充実として、積極的な意見が交換された。また、事務局の移転、新役員については、本誌の〈事務局からのお知らせ〉をご覧がたい。

なお、大会スケジュールを下記にまとめてご報告いたしますが、研究発表について、発表者とその要旨をおねがいしましたが、全部の原稿を頂載することができず4名の方のみの要旨を掲載させていただくことにいたしました。ここにお詫びいたします。

11月15日（金） 於 京都大学楽友会館

10.00	研究発表 心象表現としてのベーシックデザイン教育	池内 登
11.30	建築に於ける機能の表現について	長部 謙吾
11.30 12.30	第5回 総会	
13.00	研究発表 家具計画の基礎的考察 —アパート居住者層の家具所有状況調査を中心として—	白木 小三郎 下河内 信子
14.50	工業デザインの周辺	宮島 久七
15.00	シンポジウム（デザイン教育）	司会 山崎 勝弘
16.30		

11月16日（土） 於 京都大学楽友会館

9.30	研究発表 照度変化にともなう色彩の見え方について デザイン教育システムの試論	向井 裕彦 東 政美
12.30	ビル内に建てる茶室について	宇都宮誠太郎
13.30 15.00	松坂屋染織参考館見学	
15.30 16.30	国立近代美術館京都分館見学（工芸における手と機械）	
17.00 20.00	懇 親 会	

※デザイン教育に於ける問題点

（心理の形象化について）

池 内 登

デザインの公共性、乃至は、ビジュアル・コミュニケーションと言う言葉が常識化されて来ている現在、デザイナーのビジュアルトリックによりかかった行

為が如何に無意味なものであるかは言をまたない事である。しかしそうした現実の中で、デザイン教育を眺めて見た時、その姿は、基礎デザインと、目的デザインの教育法の間には弁証法的な教育構造が見られない事と、何ら内容をもたない、技術のトレーニングに墮したものであったり、又、デザイン活動に必要な専門座学と技術演習との間の非合理性が見受けられることである。

グロピウスがハムレットの中の言葉を引いて、「頭と心臓はもはや同じ血を分けたものではない」とし、今日のデザイン教育が不統一な知識と創造能力の人格を育てあげている、と指摘しているのもこのあたりを言うのであろう。そこには、物を造る過程や技術に直接関与することによって教えられることなく、教示的観念的に教えられ美学的、論理的偏重の様相があり、創造的な理解力は姿をひそめてしまっている。しかもその上に悪い事には、ビジュアルトリックが面白がられている。その為か「社会的に分裂してしまった今日の世界に視覚芸術を理解する為の共通の鍵は失われ、デザイナー達は悲しい孤立に悩まされている」（グロピウス）とし、「視覚的伝達の手段の共通言語によって連帯性の基礎が与えられる事により、デザイナー達が救われる事になる」とも述べている。

我々がここで考えるべきは、単一分散化されて教えられつつあるそれぞれの座学と技術演習に秩序をもたせる事であり、その技術演習に於ける発想の場にあつては、その活動のそれぞれの過程を通じて、①常に、人間感情や精神構造や、生理的要求と結びつけられ、形象化され得るような方法を採用すべきであり、②造形のパターンが構造体として、それぞれの目的性に適合され得る内容や方向性を発見出来るように指導すべきである。

それはとりもなおさず、学生達が自ら、目的の条件に、造形的なその適合点の発見と適合不可能点の修正と言う能力を培う事になり、又伝達の為の生理的、心理的な共通分母と、異質分子を造形の中に発見する能力をもつことになる。このことが、創造能力と相俟って、独断的、主観的な解釈や、カビ臭い公

式におちいることなく、一般的な理解の為に必要な非個人的な立場が、そのデザイン活動の中で支配的要因として働くことになるのである。

(註) スライドに見られる生徒作品は、単なる構成のトレーニングとしてではなく、具象的、抽象的表現を問わず総て、社会観、世界観等を感情と結びつけて構成させている作品で、そこには心理的状況が形象化されている事実が強く感じ取られる。

※ビル内に建てる茶室について

宇 都 宮 誠 太 郎

茶の湯は珠光以来利久や宗旦によってそれぞれ創案され、ときには静寂の境地を慕う侘の茶、豊公のけん爛たる茶、遠州の高度な文化を示す書院の茶や、また遺蓬庵のような吉野太夫の粋な茶もあり。しかも当時の思想を背景として、時代と共に変りつつも今なお身近な日常生活のうちに残されている。また茶室を構成している自然材の温さは、新しい科学の開く建築の世界にも、数寄屋の優美を誇る日本の姿として、また生活芸術として世界の人々から愛せられている。

数多い茶室の遺構が示すように、その壁面には変化の多い窓や出入口による美しい分割があり、その畳の敷き廻しや天井の工夫には、静寂な部屋にもある律動が感ぜられ、また一輪の花に心を寄する床の間や、床柱中柱などの取り扱いは美しい空間が構成されている。茶室の、ほの暗い幽玄の境地には、たとえ間狭な草庵ととも、神仙のかなたにたゞよう無限の空虚が、我々の心に開かれてくる。なお茶室のもつ、あらゆる非相称形は室内に安らぎの心をいだかせているとは言え、数寄屋の美しいモジュールはかえって、近代的な生動ある生活

空間を感じさせるものがある。茶室の現実的構成は変らなくとも、床の間の掛け軸の歌切れや懐紙などがかもし出す詩の世界には、亭主の色々な幻想が感ぜられ、なお主客の行動によってつくられる、茶のふんいきは無限である。むかし戦乱に心の乱れをしずめ、明日への新しい希望をいだかせる武士の世界にも、茶室は心と芸術へのまたとない境地であった。そして封建時代の庶民の日常にも、茶道の秩序と整頓とは、生活を正しく推進していた。また物質と利慾との闘争にあえぎ、機械文明に追いつめられている私たちの心にも、今なお茶の湯に愛着が残っている。しかしそれは高き文化を示す豪華な建築でもなければ、高価な道具にまつわる茶の湯でもない。全く身近な住まいのうちに、家族が明日へのつとめに心の安らぎをむさぼるひと時である。自分はこうした圍いを静和室と呼んでいる。しかしまた同時に一般社会の公共福祉施設として、生活文化の推進に寄与し時代に即応した、日本の古い伝統と新しい創造とによる、近代茶室の建設も必要ではなからうか、今度自分が東京神田の旅籠町新日通ビルの八階に設計を依頼された茶亭もこうした企画であった。

建物は間口 7.65m 奥行 13.00m 面積 99.45㎡ の矩形の場所に建坪約 50.00㎡ の建物と庭をつくるのであったが、内外露地はコンクリートの四壁に囲まれた、青天井もなく季節や朝夕の変化も感ぜられない一郭内なので、庭は緑樹を用いず石組つくばい石灯籠などによる石庭とし、露地の照明については、アクリライト板を貼りつめ木製のルーバーをつけた、人工のルーミナーリーリングとして青天井に代えたのであるが、庭は白砂を敷きつめて反射率を高め、壁面は聚楽壁や胡麻竹貼りとして反射率を低くし、庭の照度は 450 ルックス室内は 150 ルックスとし、何れも三段に切り下げ朝夕のふんいきを演出されるようにし、部屋の照明にはすべて和紙を透した散光照明と間接照明方式をとり、また露地や建物内の換気冷暖房湿度については、ビル内の施設を利用してその調節をはかることとしたのである。

書院座敷は玄関・水屋の間・広間座敷とからなり、内露地に面して化粧天井

の廂を深く差し延べ黒瓦四半敷のベランダを設け、吾足石の手水鉢をその脇に配し、小さな噴泉としたのであるが、この座敷は本席に対する寄りつきや待合に用いられ、時には社員の茶や花の稽古場としても使用出来るようにした。また本席は四畳半席の他に水屋と玄関の間とを付設し、正式の茶事が営まれるような設備をしたのである。なおこれらの詳細については、成安女子短期大学紀要第五号掲載の寄稿にゆずることとする。

※デザイン創造力の構造について

東 政 美

デザイナー育成という教育上の立場から、デザイン創造力の構造について考察してみた。

それは、造形デザインにおける創造力の構造を解明していったら、或いはその根底を培うための有力な手がかりが掴めるのではないか、という理由からである。

たまたま、工業デザインのプロセスについて調査をしているので、当然工業デザイナーの能力分析ということに及び、それからヒントを得て、大変難解で雲をつかむような、創造力の構造究明に発展したわけであるが、一口にいうと、つまり、デザイン創造力の構造体とでもいうべきものは、造形力、デザイン感覚、直観力、デザイン理念、デザイン知識、表現技術を基盤とし、それらを助長し、振張せしめる作用をなす表現力、審美力、感受性、想像力、分析力、応用力等の力を得て、平面的な拡大をみせ、その基盤にたち、これらに支えられ、複雑にからみあい乍ら、中心において創造の営みが生じ、立体的なた

かまりをなすのではないか。ちょうど六角錐のような形を想像するのである。この構造体を仮りに、デザイン創造力の構造体だと想定して、あらゆる角度から検討を加えてみると、いろんな意味でうまく解決がつく。

つまり、前述した諸能力のどの要素が欠けても、この構造体の形はくずれるであろうし、また基盤が美しく整っていても、創造の営みがなされなかったならば、単に見せかけだけの底の浅いものに終わってしまう。逆に創造力はあるけれども、造形力に欠ける場合はすでに造形デザイナーとしては不適格ということになる。

調和のとれたしかも、全客的に増大する可能性をもったデザイン創造力の芽を培うためにいかなる働きかけや、準備がなされればいかは、この構造体をもとにして、さらに仔細な検討を加え、細部に亘っての追究をしていったら或る程度の答は描きだせるように思われる。もしかしたら、数式として割りだせるのではないかとすら考えるが、しかしこれは少し極端なようだ。

そして、その答を基調にしての、正しい適切な教育システムの樹立こそが最終の目的である。

以上の構想を裏づけるため、F工業高校工業デザイン科のカリキュラムを組上にのせ、検討を試みた。結果について詳細を記せないのはまことに残念であるけれども、一応の目的は達することができ、また、この構造体のアイデアの妥当性についても、ある程度の確信を得た。

このアイデアを起点として、かつてのバウハウス教育を凌駕する壮大なデザイン教育の展開を夢みている。

※照度変化にともなう色彩の見え方について

向 井 裕 彦

1) 日常我々が色を見る場合、また色を比較する場合、その光源として蛍光灯や電灯、また昼光のもとでの色の見え方にかなり神経質であるが、これら光源の照度条件にともなう色刺激の変化については、比較的無頓着である。一般に色の比較方法の条件としては、試料の面を標準の光 (A, B, C) によって、いちように照明し、その面における照度は 250Lux. 以上にして、まぶしくない程度に止むべきであると定められている。しかしこれはあくまで測色における色の比較方法であり、実際に色を見る場合には、前述条件以外の時の方が多いわけであり、250Lux. 以下の低照度においても、色を取り扱うわけである。つまり色に及ぼす照度条件を変えることにより、色感覚も当然変化すると考えられ、これにともなう色刺激がどのように変わるかを検討しなくてはならない。しかしこれら光源の照度条件にともなう色刺激の変化については、比較的研究がなされていない。従って照度変化の色刺激に及ぼす影響についての実験が必要であると考えられる。本実験においては Color Harmony Manual の試料色票のうち、5基準色 (Y hue 1½ pa), (R hue 7 pa), (P hue 12 pa), (B hue 14 pa), (G hue 21 pa) 及び第1表に示す試料番号1~14の各色票により、被験者7名を使い、照度変化による色刺激の変化の測定をおこなった。尚実験に使用した試料による色の変化の一般的特性は、第2表の如くであり参考までに示した。

第1表

試 料	
Y	Yhue 1½ Pa
1	〃 Ob
2	〃 mb
3	〃 na
R	Rhue 7 Pa
4	Rhue 7½ nc
5	〃 Pa
6	〃 na
P	Phue 12 Pa
7	〃 Pc
8	〃 ne
9	〃 nc
B	Bhue 14 Pa
10	〃 Pc
11	〃 nc
G	Ghue 21 Pa
12	〃 ne
13	〃 Pc
14	〃 nc

2) 結論を簡単に記すと、(1)本実験における照度変

化 (0~500 Lux.) 内では、基準色はその照度変化に対して、色票に表わし得る色差をもった色に変化する。(2)本実験条件内では、色彩弁別における個人差に相当なバラツキを認めるが、各色別に見ると、Yellow・Green は Red・Purple に比べて、弁別閾が大きい。すなわち照度変化に対して Yellow・Green は Red・Purple より変化がしにくい。逆に Red・Purple は照度変化に対して色刺激が変化しやすい。(3)照度変化に対して変化する色刺激は、ほぼ明度によるものである。

第 2 表

Lux \ Color	Yellow	Red	PurPle	Blue	Green
50			Pc (hue 12)	PC (hue 14)	PCorne (hue 21)
100	Ob (hue 1½)	nc (hue 7½)	ne (//)		
150	mb (//)	pa (//)		↑ 白味増す	
200	↓ 白味増す		nc (//)		
250					
300	↑	na (//)		nc (//)	↑
350					
400	na (//)	↑ 黒味増す			nc (//)
450					
500		↓	↓	↓	↓
↓					
1500	↓	na (hue 7)	na (//)		na (//)

参 考 文 献

- 1) Color Harmony Manual, 1948 Edition., The Martin-Senour Co., America.
- 2) 橋本・相馬・小出：色彩研究第 6 卷第 2 号 (1956) 日本色彩研究所
- 3) 工業デザイン全書：人間工学，金原出版，
- 4) 現代色彩講座：工業と色彩，修道社。

■ 研究例会

関西意匠学会が昭和34年11月7日に発足して以来、今年で満5年となりました。その間、研究例会は20回、大会は今年で6回を数えます。会員も増え、一般会員315名（学生会員を含む）法人会員18、賛助会員1となって居ります。

研究発表会

第16回研究例会

日時・昭和39年2月8日

場所・大阪浪速短期大学（大阪市東住吉区矢田照ヶ丘）

発表・「デザインと風土性」大阪浪速短期大学 田中健三
「欧米の印象」 大阪大丸デザイン室 広本大治

第17回研究例会

日時・昭和39年4月25日

場所・京都工芸繊維大学・工芸学部（京都市左京区松ヶ崎御所海道町）

発表・「イタリーデザインと日本デザイン」東洋紡績KK 恵美和昭
「デザイン教育について」 京都市立美術大学 平田自一

第18回研究例会

日時・昭和39年6月27日

場所・京都女子大学・家政学部（京都市東山区東大路七条）

発表・「イタリーの自動車デザインについて」ダイハツ工業KK 柳原良樹
「色彩研究のための調光設備について」京都女子大学 向井裕彦

第19回研究例会

日時・昭和39年7月25日

場所・神戸公共学校共済組合「六甲荘」（神戸市生田区北野町）

発表・「集と個について」野崎デザイン事務所 野崎南海雄

「広告業務における合理性」神戸新聞広告局 長谷 正行

第10回研究例会

日時・昭和39年9月26日

場所・京都市立伏見工業高校（京都市伏見区深草鈴塚町）

発表・「インドネシア美術」（主にバチックについて）

京都市立美術大学 元井 能

「デザイン雑感」 福永デザイン事務所 福永憲一

以上が約1ケ年間の研究例会の経過であります。第16回の大阪浪速短期大学に於て催されました際は、寒中でもあり、冷雨のなか、多数参加され、研究発表後学校当局のご好意により懇談会にビールが寄贈され冬の夜長がを歓談し盛会裡に閉会しました。第19回の神戸にて催されました研究会は、発表終了後、神戸地区幹事のお世話で翠甲園で懇親パーティーとなり、多数の参加者で満員、六甲より港の灯を眺め、有意義な一時を過しました。此の稿を借りて幹事諸氏に厚く御礼申し上げます。

■ 被服部会研究例会

被服部会第2回研究例会

38年5月25日（土） 於 京都女子大学

研究発表

「江戸時代の小袖意匠について」

大阪市大 中 島 清 子

要旨、江戸時代（寛文頃より元禄頃までの間）における小袖の意匠について

で、まずその推移を眺め、その時代独自の意匠をかたちづくるに至った過程を当時の文化の荷担者であった町人達の生活感情との関連において捉えた。

その意匠は江戸時代前期の桃山の意匠から進展して、町人文化の興隆と共にある展開をみせ元禄的意匠を成立させたのであるが、その背後には、歌舞伎風俗の流行や意匠家の出現、町人の経済的進出と社会的地位に対する抵抗等、様々の歴史的な事実が存在し、それらの中で形成された彼等の生活を地盤として実現した小袖は「きるもの」というより「みるもの」として意図されたようであり、材質の豊富さ、技術の繊細さを求める方向に発展して、謂わば装飾性の要素が強くなり、小袖の美もその日常性を超えた場所において求められたものと解される。

「ポリエステル定着の人台 (body) を作るまで」

京都女子大 浅田正代

要旨、被服の構成やモードの研究者は、その研究をする前に必ず人台 (body) を必要とする。その人台を作るにあたり、自分の要求する体型を如実にあらわすには如何に型をとるかということが問題になる。そのため私がポリエステル定着の人台を作って、これをデザインや縫製の授業に活用するまではほぼ15年近い年月を使った。定着の素材は、ポリエステル、ベンゾールパーキサイド、ジメチルアニリン、又は、ポリエステル、メチルエチルケトン・パーキサイド、ナフティン酸コバルトであるが、これまでには次のような段階を経たが、私にとってはどの時代も現在を支える貴重な体験なのである。

- ① 彫塑家に寸法どおり、リアルに模作してもらう。
- ② 10オンスのボール紙で平面製図による構成。
- ③ ガムテープを直接人体に張りつけて型をとる。定着に石膏を使用。
- ④ ガムテープの原型に樹脂を上塗。

- ⑤ ガムテープの原型に樹脂を中塗。
- ⑥ 樹脂の変化を検討する。

被服部会第3回研究例会

38年12月14日（土） 於 京都女子大学

研究発表

「アメリカ旅行談—ナバホインディアンの

クラフトを中心として（スライド使用）」

大阪市大 中 嶋 朝 子

要旨、Navajo Indian は一世紀前までは7,000人であったが、今日では90,000人を超えているということであり、東洋的な容貌をしている。ロッキー山系の Navajo Country はアリゾナの北東・ユタの南東・ニューメキシコの北西にまたがり、若干の野生の植物が生え、動物も住んではいるが、寂漠たる土と石のドラマティックな地形をもった世界である。

ナバホ族は紀元1000～1500年に北方から南西へと、狩猟と食物採集をして生活しながら集団で移動してきた半ば流浪の民族である。ニューメキシコの Pueblo 族の住んでいる土地にやってきた時、彼等から農業・はた織・宗教的行事など多くを学んだ。そして17世紀後半には、彼等が飼っていた羊の毛を原料として、優秀な織物の製作を確立し、彼等の衣料としていたが、今日では Rug として旅行者の土産物となっている。私はそのナバホ織物の変遷を辿ることの中に、彼等が表現した織物の模様の傾向とその意味するものを捉えて紹介した。

懇談会

「被服意匠学に関する諸問題」

司会 京都女子大 土井幸代

会員各自の研究テーマをもちより、それらの方法論について種々討議された。その諸問題は被服に関する流行論、紋様史、デザイン教育等であり、活発な意見がかわされた。

被服部会第4回研究例会

39年5月2日(土) 於 京都女子大学

研究発表

「被服構成学の立場からみた被服デザインについて」

帝塚山女子短大 南日朋子

要旨、被服は平面的な材料を、立体的でしかも多くの双曲面をもった人体に被覆することによって形態が完成する。

被服形態の分類法には種々あげられているが、構成の上からこれをみると、材料をそのまま覆っていく方法と、適当な大きさに Cutting しそれを縫合していく方法に分けられる。前者はその美しさが Gather とか Tuck, Drape 等の素材に流れるような線とか、陰影によって求められ、後者は被服の上にあられた線、面のかねあい、人体美の表現のしかた等に求められる。今日ではこの両者を巧みにくみ合わせた被服がその大半を示している。

このように素材の立体化には Decorative なものと Basic なものとに分けられるが、被服と人体との中間空間のあり方によっても被服の表現性ひいては形態にも大きく影響することはいうまでもない。

■ 事務局の移転

昭和38年11月の第5回大会の議決によりまして従来京都学芸大学・特修美術科にありました事務局が昭和39年1月18日付で京都工芸繊維大学、意匠工芸学教室に移転しました。新事務局の構成は、総務福永委員、会誌編集・河本委員で事務一般には野口・高橋幹事、会計事務は中村・大橋の両会員があたりて居ります。

■ 新役員紹介

京都市立工芸指導所の意匠部長であり、本学会の委員をして居られます片山行雄氏が退官され、新たに小川雄三氏が着任されました。それで片山委員には留任を願い、新たに小川氏に委員を依頼しましたところ御承諾を得ましたので7月よりお願いしております。

また 大阪方面の役員が少なく会の運営を更に充実強化する意味で 大阪府立西野田工業高校デザイン科の大竹正道氏を新たに幹事として御願ひする事になり7月より、ご参劃願って居ります。

■ 新入会員紹介

昭和38年11月15日以降下記の方々が新しく入会されました。

新 入 会 員 (順不同)

法人会員。長谷虎紡績株式会社

大阪市西区江戸堀1丁目35番地 (Ⅲ) 0213~0215,0220,4770,

。乃村工芸社

大阪市浪速区元町1の747

。東京デザイン研究所

大阪市東区森の宮東之町545 大阪紙器会館内 (491)9523

一般会員

氏名	勤務先	住所
三上英子	近江兄弟社高校	滋賀県近江八幡市魚屋町中73
桑畑周右	ダイハツ工業K.K.	豊中市桜塚本通り7の76 野口方
鳥屋原英雄	佐賀県立有田工業高校	福岡県北九州市八幡区竹下町 1丁目
中島雅夫	京都高島屋	豊中市柴原775の1 池田(6)7085
池本千代子	京都高島屋	大阪市北区天神橋筋6の37 (351)1501
三木久延		京都市中京区堀川六角下ル (2) 0935
山内明	京都市工芸指導所	京都市右京区西京極野田町
上野隆子		京都市右京区太秦蜂岡町30 (86)一0463
菅谷吉雄	早川電機工業K.K.	吹田市片山出口町915の1
松谷敬一	京都産業デザイン研究所	京都市東山区下馬町492
窪田耕一	シンポ工業K.K.	京都市右京区西京極堤外町12
大川原千鶴	四天王寺学園	布施市長瀬吉松38 北後方
細川宗孝	内藤建築事務所	京都市南区東九条南松ノ木町14
森淳	浪速芸術大学	大阪市阿倍野区文の里4の134
大橋乗保	京都工芸繊維大学	京都市右京区御陵塚ノ越町29
大橋千代子	自営	京都市右京区嵯峨折戸町
高橋純	京都女子大学	京都市東山区今熊野北日吉町 50の14
田中絹江	京都女子大学	京都市東山区渋谷通大和大路 東入ル 松井方

下松郁子		守口市八島町27
矢野雅子	帝人K.K.販売促進部	堺市大美野60の6 登美丘(7)1064
中西和枝	成安女子短期大学	京都市左京区浄土寺西田町 100の3 水原方
今尾恵美子	成安女子短期大学	京都市北区大將軍西町25の3
山北栄寿	神戸船舶装備K.K.	神戸市長田区大谷町3丁目19
柿原信	成安女子短期大学	京都市上京区相国寺北門前町 秋沢方
関口正史	京都市立伏見工業高校	大阪府高槻市天王町119 高槻(5)4627
船津英治	京都市立伏見工業高校	京都市東山区泉涌寺東林町39
小川雄三	京都市工芸指導所	京都市伏見区深草正覚町14
太田高明	兵庫県立龍野実業高校	兵庫県龍野市北龍野 龍野実業高校
前田樹男	松下電工K.K.研究部	滋賀県大津市上大門町 6
太嶋捷次郎	東海高熱工業K.K.	京都市東山区今熊野東瓦町695
今津玲子	四天王寺学園高校	大阪府松原市西大塚町163の1
林英博	京都市立伏見工業高校	京都市伏見区深草東伊達町74
松井清人		京都市伏見区桃山筑前台町15
神田美年子	相愛女子短期大学	尼崎市七松神楽56大阪(401)0192
延山吉郎		京都市中京区六角通新京極東入 桜之町449
金城四郎	東洋棉花株式会社	神戸市葺合区宮本通2丁目13の4
持田総章	浪速芸術大学	大阪府南河内郡美陵町丹北小山 521

片山 功	ミノルタカメラKK (技術センター)	堺市野尻町白鷺(B)団地 11号館105
平田 汪洋		京都市左京区吉田本町5の4 亀井方 (77) 4618
松本 千巻		大阪市大淀区豊崎西通1の7

学生会員

氏名	学校名	住所
寺島 晴明	京都産業デザイン研究所	兵庫県川西市栄根山の下2の11
柴田 千代乃	京都産業デザイン研究所	京都市下京区油小路七条下ル
森 茂雄		京都府宇治市五ヶ庄寺界道 6
亀谷 立二	京都学芸大学	西宮市甲子園町316
八木 能成	京都市立伏見工業高校	京都市中京区千本丸太町西入ル 中町41
中村 克彦	京都学芸大学	京都市伏見区桃山町立売11の2 山田善一方
酒井 牧子	京都学芸大学	京都市伏見区深草関屋敷 京都学芸大学露草寮
窪田 孝	京都産業デザイン研究所	大阪府高槻市天王町180
中山 雅恵	京都学芸大学	京都市上京区相国寺東門前町
広田 倫子	神戸大学	神戸市東灘区本山町森454
中出 貞雄		京都市東山区本町15丁目 字北正覚758 植田方
杉山 八保	京都産業デザイン研究所	京都市東山区祇園町東富永町 347
松井 嬉子		京都市北区小山北玄以町10

清水 あけみ	天理市川原城町198
馬場 文子	神戸市長田区庄山町2の4
嘉祥寺 伸子	堺市南半町西4丁13
米谷 京子	大阪市天王寺区石ヶ辻町25の5
早川 澄子	大阪市阿倍野区相生通2～9 相生パシヨン
白井 照彦	京都市下京区西木屋町正面上る 梅湊町95 (37) 5907
渡辺 浩一	京都市左京区上高野川原町2
戸梶 伸子 奈良女子大学家政学部	奈良市学園町南3丁目963 長谷部方 (5) 1266
相川 佳予子 //	奈良県生駒郡生駒町近鉄旭ヶ丘 住宅69の36

■ 会員の移動

会員の住所並びに勤務先移転変更された方は下記の通りです。住所不明の方がおりますので御存知の方は事務局迄お報せ下さい。

氏名	新住所又は新勤務先
石井 宏幸	神戸市東灘区魚崎町横屋586の1
金野 広	吹田市清和園町15番6号 大阪高島屋販売促進部広告課
塩崎 健士	堺市日置荘町北町70番地104
瀬川 隆広	京都府乙訓郡向日町寺戸岸の下25の109
関 盛徳	鳥取市立西中学校
高島 正江	大阪府池田市玉坂町16

武田 恒夫 京都府乙訓郡向日町上植野野上山16 小野別荘
土屋 一夫 岡山市原尾島32の5
土井 幸代 京都市左京区岡崎天王町76
中野 正男 京都市左京区松ヶ崎呼返町34
中村 敬治 京都市右京区太秦中山町5 北崎方
蓬菜 公平 日本輸出雑貨センター神戸支部
増田 史郎 八尾市若草町1番24の2
桒 伸 進 京都市北区小山東玄以町 5
松本 るり江 尼崎市東塚口町 5丁目31の1
脇井 清市 大阪府河内長野市木戸町257の5
芦本 雅子 吹田市高野台 2丁目 9番14号

不明の方

稲垣 華雪 亀田 悦次 武村 新

■ 会費納入状況

会費納入に就きましては度々督促を致しておりますが未だ未納の方が多く

昭和38年度、会員総数 277名、未納 115名

昭和39年度、会員総数 315名、未納 187名

で良好でなく会の運営や会誌出版等費用もかかりますので御協力を願います。

■ 学会、会則の一部変更

第5回大会の議決により会則の一部を変更しました。要点は学生会員の件、

事務所移転の件会計の振替入金を以て新会員と認める件で、会則を御覧下さい。(ゴシック字体の部分が変更の部分)

関西意匠学会 会 則

第1章 総 則

第1条 本会を関西意匠学会と称する。

第2条 本会の事務所を当分の間、京都工芸繊維大学工芸学部意匠工芸学教室に置く。

第2章 目的及び事業

第3条 本会は意匠に関する会員相互の研究により意匠学の進展を図ることを、目的とする。

第4条 本会は次の事業を行うことができる。

1. 各種研究会の開催。
2. 機関誌その他の編集又は発行。
3. 意匠に関する研究者共同の便宜、利益を図るための諸活動、及び諸事業
4. その他本会の目的達成に必要な事業。

第3章 会 員

第5条 本会の会員は正会員、学生会員、法人会員、賛助会員とする。

1. 正会員 意匠各部門の研究又は従事者であり、会費を納入する者
2. 学生会員 学校在学中の者（但し卒業後は学生会員としての資格を喪失する）
3. 法人会員 法人又は団体の名において、本会の事業に参加する者。当該法人に所属する職員5名以内が、本会主催の諸集会、各種研究会に出席することが出来る。
4. 賛助会員 本会の事業に賛同する後援者

第4章 役員

第6条 本会に左の役員を置く。

会長 1名

委員 若干名

幹事 若干名

第7条 会長は委員の推薦による。

第8条 委員及び幹事は正会員中より選出し、委員の互選により委員長1名を定める。

第9条 委員会は本会運営の方策を協議し、幹事は運営の事務を担当する。

第10条 役員任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

第11条 本会は顧問を置くことができる。

顧問は委員会が推薦し、会長これを委嘱する。

第5章 会議

第12条 会議は総会及び委員会とする。総会は年一回これを開く。別に委員会が必要と認めた場合、又は、正会員総数の3分の2以上の要求ある時これを開く。

第13条 総会の決議により会則を変更することができる。

第6章 会計

第14条 本会の経費は会費及び補助金その他を以ってこれに当てる。

第15条 本会の会計は4月1日より始まり翌年3月31日終る。

第16条 会費は総会に於て決定する。

正会員 年額800円 学生会員 年額500円 法人会員 1口年3000円

賛助会員 委員会がこれを定める。(1口年10,000円)

第17条 新会員の場合は振替入金を以って新会員とする。